

日本百將傳一夕話

三

2326



# 日本百將傳

日本百將傳一々話卷之三

東都



松亭金水謹撰

## 目錄

坂上田村麻呂

文室綿麻呂

藤原利仁

藤原忠文

平貞盛

藤原秀郷

小野好古



源經基  
 橘遠保  
 源滿仲

以上十將目錄終

永田姓



左京大夫前田  
 麻呂の子あり  
 田村麻呂の子と  
 坂上浄野とあり  
 家風と承嗣て武  
 藝絶倫なり天長  
 の初陸奥出羽按  
 察使となり仕  
 在る數年国内  
 大服と蝦夷其  
 徳小化を

坂上田村麻呂

天皇五十六嵯峨帝弘仁三年卒  
 今嘉永六丑述十四十三年成

坂上田村麻呂者爲征夷將軍攻

擊蝦夷屢有其功延曆大同之

時也且仕弘仁帝以誅仲成

田村麻呂の身丈五尺八寸。精力あり目へ鷹爪の如く。鼻へ金線の如し。平  
 居て鈴笑をす。老幼親を仰。目と怒り。魚鰓をく。六極歎惜。伏以事。有る  
 身と重くせんとする。ゆゑ二百斤ふみ。せんとす。六十四斤の級する。不



坂上田村麻呂の詔

出自朕の前より。その為人勇猛なり。智謀武略衆人上なり。その卿は  
 奥羽の完賊と討し。また倭衆を服して山城清水と草創し。或は冷麻呂の鬼と  
 撃つる。頗る人々勝る。その功も。固より虚実相半なり。悉く信下り。今  
 今。書ふ。載る。処と擣る。その大畧と述べて。兒童亦示して。抑性昔より。蝦夷と戦する。の  
 今の蝦夷の地。小あひむむ。と。惠比須と。初ト。惠曾といへ。惠曾のいづまの  
 世より。の秘め。遠く。惠比須と。称する。の。九坂東の諸國と。年。既。小。の。参。用  
 道。が。條。小。蝦夷人。墓と。護く。の。所。上。総。の。ある。より。今。下。新。中。奥。羽。の。地。の。小。水  
 の。邊。境。み。て。王。化。の。及。び。が。た。ぬ。り。動。す。と。百。箇。長。小。元。頼。の。鬼。流。出。来。す。と。民  
 と。採。め。國。家。と。礼。防。を。す。む。者。絶。び。と。小。室。龜。の。頃。紀。廣。純。と。の。へ。り。の。陰。謀。を。す。り。  
 當。下。伊。波。皆。麻。呂。と。の。へ。り。殘。衆。の。黨。を。す。り。と。廣。純。大。小。是。と。惜。む。り。と。其。一

家。と。亡。と。ん。と。殘。せ。と。け。と。も。い。ま。其。州。と。得。ず。小。皆。麻。呂。の。豫。め。と。と。時。で。心。中  
 憤。り。と。含。む。と。の。ど。も。渠。の。計。謀。の。ある。の。と。更。小。色。小。彰。は。び。陽。で。と。懇。心。志。と  
 獨。り。廣。純。小。媚。一。と。廣。純。と。ま。す。り。信用。を。渠。と。成。の。心。を。皆。麻。呂。心。中。小。欺。ひ。  
 其。間。と。窺。ひ。て。其。軍。兵。と。備。し。廣。純。が。館。を。圍。む。於。於。館。の。元。勢。か。み。と。防。ぐ  
 處。を。便。溺。る。竟。小。討。死。と。す。り。と。皆。麻。呂。の。凱。歌。と。吐。と。あ。げ。直。小。府。原。へ  
 押。い。や。と。金。銀。財。宝。と。奪。ひ。取。り。鉸。へ。火。と。放。て。悉。く。灰。粉。と。做。り。け。と。百。姓。皆  
 へ。驚。と。恐。と。遁。走。他。郷。へ。逃。亡。と。す。と。小。於。早。馬。と。ま。す。と。の。う。り。花。流。注。進。す。と。  
 梯。の。盡。と。挽。が。如。し。固。に。諸。卿。會。議。あり。中。納。言。繼。體。と。征。東。大。使。と。大。伴。益。立  
 と。紀。朝。臣。古。佐。美。と。副。使。と。安。倍。朝。臣。家。麻。呂。と。出。羽。の。強。壯。將。軍。と。あり。  
 東。軍。へ。向。ひ。む。然。る。小。賊。流。強。う。と。征。伐。延。引。小。及。ぶ。と。孫。朝。臣。小。黑。麻。呂。と。持  
 節。征。東。大。使。と。ほ。て。官。軍。と。援。を。む。天。應。元。年。九。月。小。お。つ。と。奥。羽。平。定。小。及。び。一。と。





田村麻呂  
平城上皇と  
拒む  
矢を放て

坂上田村丸



まう夷賊心服せし動す。六黨と稱ひ擾乱屢ありけしども。近き徳士とて。後  
めていも。帝度使の下向わび。若く桓武の御宇延暦七年。大に強授ふ及ぶ。て  
参議中衛大將紀古佐美と。心東の軍とあり。蝦夷と征する。とて。諸軍屢利と  
失あり。とて。征伐する。と能く。以て。来年。三月。と。臨上。坂東。結。合。の。兵。五。万。八。百。餘。騎。多  
賀。城。を。合。兵。て。由。命。せ。し。は。か。て。翌。八。年。仲。の。軍。兵。陸。奥。免。賀。城。を。合。兵。て。副。將  
軍。廣。成。中。軍。別。將。池。田。真。牧。前。軍。別。將。安。倍。墨。繩。等。軍。議。と。定。め。て。衣。川。と。度。成。城  
と。擊。つ。と。急。あり。賊。僅。く。二。百。人。防。ぎ。難。て。大。に。退。く。官。軍。得。り。と。こ。と。と。遂。に。  
栗。伏。村。に。到。り。前。後。の。軍。勢。と。合。せ。ん。と。し。時。に。夷。賊。八。百。餘。人。東。へ。う。り。出。て。後  
と。殺。ひ。逃。る。賊。等。取。て。返。し。今。と。持。て。競。ひ。免。る。官。軍。前。後。に。放。し。け。て。進。退  
あ。ら。に。合。さ。り。つ。た。奮。撃。手。突。戦。秘。術。と。竭。せ。ど。拒。ぎ。難。く。能。く。高。田。道。成。會。津。社  
麻。呂。大。伴。五。百。餘。騎。等。を。戰。死。し。その。餘。の。軍。兵。武。ひ。に。討。し。川。に。臨。り。巖。を。碎。り。死

する者。子。勝。人。傷。と。被。る。の。二。千。餘。人。賊。等。が。育。と。獲。る。と。一。僅。く。八。十。餘。級。と。ぞ  
あ。ら。に。一。軍。別。將。と。一。條。の。血。路。と。用。と。遠。く。み。ら。と。遁。と。て。車。に。載。り。け  
る。帝。大。に。逆。麟。あり。と。その。懈。と。乳。さ。る。小。將。軍。古。佐。美。其。罪。あり。と。有。免。と  
加。へ。ら。し。真。牧。墨。繩。が。官。と。解。く。と。程。に。被。賊。仇。等。今。の。思。ふ。者。あり。と。近。き。と。據  
奪。と。威。勢。猛。く。震。ひ。る。因。て。延。暦。十。一。年。或。は。十。年。大。伴。弟。麻。呂。百。餘。餘。折。丹。治。比。濱  
成。坂。上。田。村。麻。呂。巨。勢。野。足。等。と。大。使。副。使。送。守。將。軍。等。の。職。を。命。じ。遠。く。奥。之。人  
下。さ。り。松。中。田。村。麻。呂。の。武。勇。謀。略。衆。を。起。て。威。嚴。と。く。炳。然。と。し。賊。等。大。に。屈。服。し  
忽。ち。平。定。ふ。及。び。し。其。由。と。奏。する。明。年。京。師。へ。凱。旋。と。し。の。別。故。年。と。起。り。不  
平。定。ふ。臻。る。と。偏。小。田。村。九。が。功。あり。と。威。名。高。く。と。傳。え。る  
按。る。小。田。村。麻。呂。夷。賊。と。討。する。と。其。年。序。法。書。異。同。あり。と。定。ま。る。ふ。は。し。あ。ら。に  
年。と。又。十。一。年。と。帝。王。略。記。に。十。四。年。と。い。ふ。と。孰。く。是。あり。と。を。以。て。然。れ。ども。中。朝



通紀延暦十六年冬十一月。從四位下坂上田村麻呂與平治の軍勢小佐佐木大將軍の任むとて。十四年の方是るらん。

かくて同十七年。坂上田村麻呂得倉小出らるるが東ふふつて一の草薙あり。軍皆くこふ憩ひて菴うこむ宿る。宿る宿る菴うと謂ていそく矣道の釋延法とて報恩法師の流るる。然るふ或夜宿るのときあり。淀川と河くまの支流と流るふ金色の光あり。則その水源と窺ひ流るるを投所あり。滝の下ふふけり。さふ人の老翁あり。不測ふてその年とその名と問ふ。翁答て。吾の行唐とつ人のあり。さふ翁と二百歳千手千眼の神呪と持て。汝と持て。年久し。然るふ脱ふらふ来る。吾東行の憩ひありとて。汝と遣わ。いまも果さば。今より汝と小佐佐木と待て。但しとて。さう材とて。千手の像と刻せん。とて。備じと。飯ると運う。汝とさうとて。作や二寺と建て。安置ま。と。言畢ん。さ返ぬ。まう。牧多の月日と終て。行唐の飯とま。さう。一日尋ねて。峯ふ。さふ。おぼ

履のこ在り。て。掛え。飯と。熟る。ふ。ふ。是。必。千手大士の。應。然る。と。さ。さ。不。日。ふ。その。像と。刻。ま。んと。欲。ま。と。と。も。元。末。資。財。の。あ。れ。小。周。思。ひ。ば。然。止。と。と。か。さ。と。さ。て。田。村。麻。呂。の。頻。て。ふ。と。と。と。感。嘆。る。像と。刻。む。資。材。と。抛。ち。且。自。宅。と。此。外。小。後。ま。一。字。の。林。利。と。建。立。一。か。の。像と。置。て。清。水。寺。と。號。く。田。村。麻。呂。の。遠。曲。あ。れ。大。同。二。年。の。草。創。ふ。田。村。麻。呂。が。願。く。と。い。ふ。と。然。ま。と。と。法。書。の。起。き。延。暦。十。七。年。小。龍。ひ。り。見。今。の。清。水。あ。れ。滝。の。音。羽。の。滝。あ。る。下。か。て。後。月。二。十。年。ま。奥。羽。の。城。徳。全。紀。その。商。長。高。九。及。び。惡。路。王。と。孫。す。り。の。勇。悍。玄。双。の。烏。瀧。の。者。あ。れ。奥。羽。の。人。氏。と。從。へ。懐。け。その。勢。い。強。大。め。て。頓。て。帝。都。と。號。い。ん。と。牧。万。の。軍。兵。と。率。ひ。武。義。相。換。と。押。合。や。後。河。の。あ。る。清。水。が。家。ま。で。う。ち。ま。る。と。さ。え。一。つ。帝。大。小。孩。さ。ら。ひ。則。將。軍。田。村。麻。呂。小。佐。佐。木。と。さ。さ。肯。令。ぜ。る。る。將。軍。速。小。領。掌。を。脱。お。ち。ま。んと。做。ら。れ。り。熟。夫。賊。の。や。う。と。探。ふ。渠。等。の。頗。る。勇。猛。の。こ。れ。幻。術。と。り。て。人。の。眼。と。眩。昧。ま。る。と。一。夜。田。村。と。さ。さ。と。尋。た。の。故。



ふあゝびい。を神佛の力で假す。條々。退治。做が。うん。と清水。お誂。延徳。お舍。如此。と  
の。う。言。さ。ま。け。ま。ば。延。徳。さ。て。う。ち。忠。臣。貞。道。法。の。力。で。り。て。輒。く。退。治。さ。さ。む。下。と。振。を  
ひ。畢。す。て。田。村。麻。呂。の。程。を。進。奔。せ。し。ま。る。が。軍。既。お。下。向。と。成。て。さ。し。由。號。勇。の。る。高。丸  
及。忠。路。王。の。忠。と。せ。し。ま。下。て。一。戦。お。も。及。ま。り。遁。と。退。く。田。村。麻。呂。の。軍。兵。勇。と。る。隊。伍。と  
乱。さ。り。滅。と。逐。て。竟。お。陰。突。へ。む。ろ。一。賊。等。の。本。所。お。ひ。さ。退。き。奇。計。と。被。け。て。ま。と。と。防。ぐ  
將軍。も。ま。と。御。計。と。更。謀。計。と。定。め。て。攻。ま。ま。と。と。故。の。元。来。土。地。お。別。と。さ。る。人。と。双。の。勇。者。の  
こ。も。不。動。と。ま。ま。官。軍。と。負。ま。と。と。彰。い。せ。り。然。し。と。り。ど。田。村。麻。呂。の。智。勇。兼。伎。の。良。將。お  
て。敗。れ。う。ち。も。更。お。屈。せ。り。軍。兵。と。懷。け。法。令。と。固。う。一。其。城。お。應。下。お。不。降。と。屈。伸。自。在  
お。攻。撃。手。お。だ。賊。等。お。不。ろ。威。勢。旁。ま。と。と。畢。と。固。め。自。う。守。り。出。て。戦。ふ。と。と。ぬ。ま。り。然  
ま。と。と。お。ま。ひ。お。ま。ひ。お。ま。ひ。一。空。く。對。陣。と。て。糧。食。と。焚。と。る。二。十。四。万。余。斛。と。と。ま。お。不。於。て。田。村  
將軍。熟。練。の。將。と。察。し。初。て。何。の。城。と。亡。泰。平。の。ゆ。え。ん。と。二。三。お。奏。参。り。雌。雄。と。一

時ふ決せん。と五万倍勝と三ふ小領け。險阻と厭へば素暮る。こととて。賊徒等も。関と  
 合せ城戸と。用と。宛然。潮の涌ぐや。群て。至て。突。我。たり。と。透。あり。し。も。え。え。り。り。  
 か。り。ふ。け。と。で。賊。徒。等。い。る。險。隘。小。訓。さ。者。あ。て。惡。所。叢。石。と。馳。廻。る。と。平。地。と。さ。る。が。  
 かく。る。と。六。考。も。な。り。も。別。あ。と。で。常。小。訓。さ。る。難。所。小。在。て。不。と。く。戦。い。小。倦。勞。れ。な。陣。小。  
 引。退。さ。旗。と。揃。へ。て。遠。矢。小。射。る。元。来。多。勢。の。賊。徒。あ。と。び。多。く。空。矢。と。り。ふ。と。あ。く。め。  
 間。ふ。五。七。十。誘。矢。小。中。で。と。斃。る。と。い。ふ。も。ま。る。と。盾。と。も。せ。び。競。ひ。荒。つ。て。さ。一。挙。小。考。  
 今。の。大。勢。と。討。取。ん。と。表。ゆ。く。な。ど。小。官。軍。の。故。と。近。所。へ。傍。卒。と。矢。柱。の。限。り。射。そ。て。  
 今。の。敵。も。絶。果。さ。り。や。何。い。せん。と。思。ふ。わ。う。人。の。小。比。丘。と。小。さ。な。男。子。と。三。入。連。故。も。あ。ら。ば。  
 御。方。ふ。も。あ。ら。ば。彼。方。此。方。と。奪。を。せ。う。が。流。散。所。の。矢。と。拾。ひ。て。小。軍。の。薄。へ。勝。る。田。村。林。  
 居。の。と。ま。と。祝。て。い。と。怪。し。と。い。ふ。も。な。ど。故。と。同。と。違。あ。く。矢。の。返。り。と。僥。倖。小。と。ま。と。り。て。射。さ。  
 小。け。と。で。賊。徒。の。大。小。辟。易。る。右。左。た。だ。小。逃。散。る。あ。で。得。さ。り。や。然。と。官。軍。の。一。回。小。咄。と。



あゝ。いかに。う。ぞら。う。え。の。の。き。う。え。ま。あ。の。の。ぞら。叶。さ。う。び。一。勢。不。切。て。莫。き。六。賊。等。い。い。く。狼。狽。に。討。て。老。教。と。る。官。軍。蓋。勝。ふ。案。に。賊。不。通。ぐ。と。高。丸。と。惡。路。王。自。身。馬。を。進。ま。つ。目。末。の。勇。威。と。う。ち。宸。ひ。傍。ま。る。り。の。で。切。て。落。し。け。る。軍。遠。ふ。と。ま。と。祝。て。う。ち。矢。盡。ひ。と。り。く。と。忘。る。ま。う。り。寧。ろ。絞。り。切。て。放。て。六。誤。ら。び。高。丸。が。胸。板。ふ。が。卷。せ。あ。て。ま。と。ま。六。り。ど。う。要。め。り。堪。ふ。べ。き。馬。より。倒。れ。と。落。官。軍。直。に。馳。奔。て。責。ふ。その。首。級。と。捨。落。と。惡。路。王。の。と。ま。と。祝。て。大。お。怒。り。下。降。と。廻。一。被。拍。あ。い。せ。て。官。軍。の。群。が。屯。中。へ。割。て。入。り。あ。う。と。僥。倖。難。と。突。伏。せ。奮。勇。擊。突。戰。死。後。に。勝。ふ。案。に。官。軍。は。と。ま。討。取。て。功。お。せ。んと。先。に。案。に。馳。奔。ま。と。勇。猛。云。双。の。惡。路。王。が。死。と。決。し。る。戦。ひ。あ。て。あ。る。ひ。に。討。と。傷。つ。け。られ。披。さ。靡。け。て。う。え。け。ま。と。六。賊。將。得。と。う。と。猛。威。と。励。ま。う。田。村。乃。軍。の。控。る。村。樂。が。邑。ふ。案。つ。け。て。切。て。莫。き。六。田。村。麻。呂。も。心。得。と。う。と。劔。と。引。ぬ。と。う。と。合。い。金。雜。び。三。十。餘。合。戦。ひ。が。田。村。が。初。や。勝。り。え。ん。さ。り。小。猛。と。惡。路。王。と。馬。より。兩。股。お。切。て。落。し。と。ふ。

於て屬從ふ賊徒等いよく乱れしところ肌いと密に木枯れし竹木の叢の散りて  
 跡にも散び散れすまは官軍頻りに追討し凱歌を吹とあげ。余万策を盡し  
 けり。猶殘黨を追捕して田村麻呂の系所へ敗る。かの清水も亦軍のすく物候  
 不測ありし矢種渴て死するけるものなり。自小比並と小男も矢を拾ひて賭せし  
 威勢を得て強敵と亡しうと演めし延保等も然もこそあま吾折会する法の中  
 勝軍地帯と勝故毘沙門とあり。さるる三像と化々殿も安布んとて修むる三  
 人との三像も歎ひあはれしひけまは將軍奇異の事いと做しとの像を拜さんと殿  
 方便と頻りに感涙を催さる。帝もこれを奏さるて深く信教を加えあはれて  
 功も因て田村麻呂も從三位と授けり。翌二十一年も田村麻呂と陸奥の王へ遣はし  
 膽はも殊と築きしものなり。於て當國の酋長大墓公阿氏利為盤具公母神等其最







即ちあて利發あり。平城の宮へ還り。あま菜子脱み足へ亡びつ。その子も安穩なるべ  
 きたる。毒と看て竟み死し。天皇勅を除名と捕へ所へ流し。大なる高き  
 親王の上皇の弟三子あり。その位を退ら。僧とあり。皇弟大伴親王とあり。大  
 伴親王と定めり。あま新く頼み平らぎ。都部系家と唱へ。是より。田村  
 麻呂が功績あり。其翌弘仁二年五月あつて田村麻呂は桑田の別業を薨  
 ぬ。その年五十四とぞ歿す。

田村麻呂が圖賛あり

委任相外機密。爰整其旅。東征薄伐。以斥蝦狄。旋奏  
 奥羽清平。

# 文室綿麻呂

人皇平代。淳和帝の時卒。年未詳  
 今嘉永六丑迄九千三十年成

文室綿麻呂者

弘仁時副田村

討藤原仲成其後拜將軍征東

夷歸京為羽林大將軍

天武天皇の皇子  
 長親王の二子文室  
 綿三子綿麻呂  
 なりとの父淨三  
 と初め諸王より  
 御史大夫兼神祇  
 伯從二位に至る  
 孝謙上皇崩る  
 儲位を定むる  
 下道眞備  
 とまんとて淨三固  
 く辭して逃る

職原抄と案ずる。尤右近衛府と羽林との。前漢武帝大初元年  
 建章官騎と名け。後ふ羽林騎と更む。さへ羽林は右近衛の  
 各々も。また右の大將と唐名羽林大將軍。唐書は右羽林大將軍  
 入正三品。將軍各三人とあり。本朝左右大將の相愛。後三位とぞ







藤原利仁の事

利仁ハ沉着あり。延喜十二年ハ當つて。中野國高坐山ハ栖む。劫盜あり。  
其張本ニ入る。藏宗藏安と云。渠等驍勇ニ双み。敵を討つ。爰ハ於  
て近き近郷の漁者を集め。在る所ニ押入。資財雜具を掠奪。彼嶺ハ山  
寨と稱え。性來の人と幼侵。黄令衣服を奪ひ。中み拒む。あれば。  
是と殺。是と異ふ。因て民苦。大怖。是屬。從ふ。日。小信。其黨  
千勝人。おとび。其威。其力。強猛。今ハ官物。奪ひ。烟貢。と掠む。朝廷  
と。其こと。宣。了。後。守府。利仁。ハ。世。ハ。世。ハ。良智。の。お。り。則。詔。を。下。  
あ。ハ。心。代。を。さ。う。勅。命。ある。是。ハ。利。仁。ハ。法。王。の。軍。兵。と。催。使。其。勢。勢。  
合。三。千。勝。自。中。軍。ハ。お。り。ハ。中。野。山。へ。登。向。を。よ。の。内。脱。ハ。五。月。下。旬。異。氣。  
烈。く。官。軍。大。ハ。突。熱。ハ。苦。ハ。り。其。ハ。利。仁。滅。寨。あり。高。坐。山。の。藤。原。ハ。



利仁  
不時の  
雪を  
賊寨と  
屠は



左大臣緒嗣曾  
孫父枝良

人皇六十代 朱雀帝の時の人天曆元年卒  
今嘉永六母造 九百七年ニ成

忠文の志操豪邁の人あり。嘗て近衛の司となり。直宿の夜、かゝる  
御厩の馬と取交て枕の上にお互におき。終夕馬の抱と戯て嚙み交る  
音とてくはひする。一ち眠りて覺むるふ足る。と初めやくるせり。う

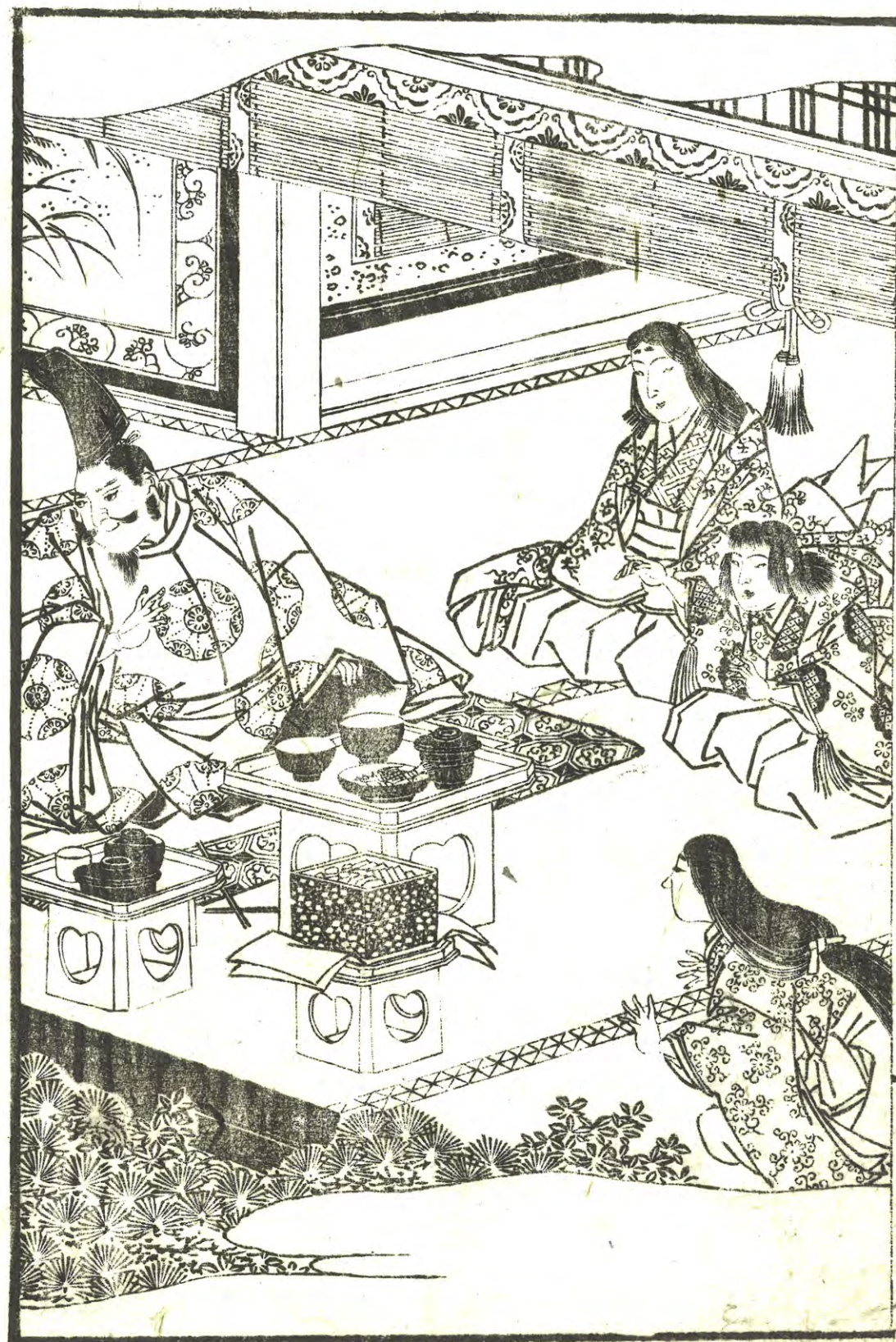


藤原忠文の話

大の志操豪邁忠直なるもの。前の獨善なり。然るも 朱雀天皇の天慶末  
つて。東ふみの平将門南海の藤原純友乱を起して。近きを孫奪せしむ。  
其後進類あるは公卿食祿あつて追捕使を定めしむ。徒四位上忠舒を  
海道従五位上小野維幹を東山道左近衛少将小野好古を山陽道参  
議藤原忠文を以て。征東大將軍を拜し。あつて其任ふより進榮あり。然  
し忠文のる詔命下しとき。食ふとありて居らるる。是と云ふより一枕  
命ひ終らば若と投て起て参内。則ち節刀を受て。そのまゝ家へ歸らば。任  
ち小卒とてのみ。その器量拔擢する。常人のより及ぶ所あり。後世におよび  
鎌倉頼家將軍のとき。越後鳥坂の謀に於て。城小太郎資盛謀反し。そのめし  
伏し木盛徳を遣付使と命ぜしむ。盛徳當下門前へ庭家までありける。その

命と云ふと等しく。甲冑雜具の通より持来と吾軍將帥に赴くべし。と云はれし。その  
佐ふ馬も驚て弛ゆる。即ち頼朝も準備を整へ。喘て追ふ。と云ふ忠文が志操を  
思ひて。その祖頼朝のるあや。その赴き大に等し。然るに或人として。盛徳頗ほ  
廉勿ふ似たり。故に對ふの軍旅を整へ。且より其謀計を定め。奪をさふ思慮あり  
く。直ふが如く。如何ふといふ。後念より。越後まて。その行程近う。さす。後計をの伺  
ふ。定む。とて。進む。兵器のたふ。備へ。不意あり。とも。後頼朝。と云ふ。う。の。微  
め。う。と。や。と。忠文の。征東使。とて。國の。東。向。い。さ。る。が。將門の。極威。威。ある。う。法  
ま。あ。び。は。さ。る。ふ。より。徳家の。軍勢。怖。と。て。徹。く。到。着。大。に。延。引。以。因。て。後。海。の。水。邊。に  
が。國。ま。で。う。ち。對。ひ。て。精。軍。勢。の。ま。さ。と。候。へ。暫。く。い。の。処。に。待。待。せ。う。と。め。く。さ。る。凡。そ。の  
海。ま。の。勝。地。を。海。の。原。と。い。ふ。對。し。に。後。亦。同。な。る。と。い。ふ。案。を。さ。る。と。心。あ。つ。も。心。な。る。も。凡  
致。と。も。さ。る。考。へ。る。時。に。軍。監。清。原。滋。後。凡。流。寛。雅。の。名。士。さ。る。う。が。の。風景。と。う。も。え







多。漁舟火影寒。焼浪驛路鈴聲夜過山。と這ハ杜荀鶴ガ詠ル所の詩と云ふ  
 思ひと違る忠文とこととて言て大なる軍不在文と云ふは。まことに英士ありと酒樓  
 と讀てその志と案せうとのひけり世の人とこととて言けん忠文課宣のゆゑの賞え  
 べの及とぬらう。と私ねりのことありなり。前太平記及び忠文かる志操ありて文武は下  
 良將あるとて後世さぐ附合の妄誕と唱へらるゝおとしの周軍を解さるゝ。却  
 説る軍いまだ下統へむらぬささふ貞盛秀郷の功ふより。ね門終ふとびこさば忠文  
 いとさうり帰路に後西海の強賊藤原純友滅亡ふおびて東西のま平定ふるふ  
 あり。その退討の戦平ふ。あゝ勅賞行い。とこ小野宮実光も忠文詔命を以て進軍  
 すまじき。戦場へ向いど一矢を放さば功と私する所なり。ささば勅賞會あるんといひを  
 弟の師捕九。とこ由心東使ふ任じ。花治と出て野外に陳營に殊に貞盛秀郷  
 なる莫大の功とす。忠文下向の援と囑とて勇威ますます張るる。とて功ありといふ。され

曲て恩賞あまふ。秋と再ニ陳め言さしけりとも。実頼竟不業引あり。この恩賞不傳  
係ふより。忠文太公怒里怒る。禁門と出るに。雙子と振るふ。仇ハ掌不達下り。又より飲食  
を断て七日と經へ。程以死一なり。主後惡灵さるぐの宗とするすふより。是を祀りて離宮  
大明神と崇めしむ。然其をより。猶まりなると。一時宇治の橘姫と支拂ふありて。流中の入  
と難きせしとのこと。前太平記に載る。その據といまご。おれ殊不忠文が年をあり  
たの村上市の天曆元年。夏六月と史ある。えと。わ。勅賞不渡。一年より。七年と經  
て後あり。七年とりて七日と締めあは。怪夫の説といふ。但一年まる年七十五中納  
言と贈らる。元來文武不賢なる人。あは。東八及不鳴簪さる。平親王の討手  
お擇び出ささんや。前後と推く考へる。野史の妄説分明る。ん

因ふに本朝神社考。宇治橘姫の條。姫大神者居宇治橋下。故号橘姫又  
名宇治玉姫。離宮神夜通橋姫時。毎曉波大有聲。離宮者在宇治。



北一説云住吉明神與宇治橋守神通云

又云美平年中云諸將以功封賞獨忠文依藤實賴公之訴而不預

焉。藤師輔屢言之帝不聽忠文怒而憂死其靈乃宇治離宮明神

也。と云々。此の説の因て来るものと云ふ。和漢三才圖會宇治離宮

の條小奈神藤原忠文之灵と云々。神傳俗説の類を載る。但ともて誤

ある。この説未審とのひ。卒年相違のことと漏す。何為有恨乎。近年疫癘

流行百姓大死衆故所會以為忠文之宗矣といへり

同書小離宮と称する。後冷泉院宇治行幸のこと。離宮を靈社の境

内小宮む。と云ふ。以来ことと離宮と称し神階を加ふるも。此時所ありと

記し。又橋形社の條あり。前文住吉神云のことと載る。餘の事蹟又予

ことと云々。小離宮と云ふ。童蒙参考の便。誤るべし。

桓武天皇

葛原親王

高見王

平高望

寛平五年五月

始賜平姓

貞盛

若名平太

# 平貞盛

人皇六十代 朱雀帝の時人將門誅伐より  
今嘉永六丑丑迄九百十四年成

平貞盛者

朱雀帝之

御宇

進兵

與平將門

相戰

放矢

殪之以

誅朝

敵以復父

讎

貞盛秀郷合體と將門と發ふ。勢一萬九千と云。將門是で攻め計し。倭  
夜討と云。兩將防ぎ。戦へども。倭不意に出。敵を討つ。終に貞盛秀郷妻  
擒と云。將門はてことと辱む。下をけ。と云。及。軍士。死。これ

なり。將門貞盛が妻。衣被と云。え。つ。と。死。の。う。り。み。成。と。云。ね。さ。み  
と。云。た。の。や。ど。り。と。二。首。の。方。と。云。返。と。云。り。り。と。今。昔。お。嫌。み。と。云。り



鎮守府將軍号  
俵藤太

年歷上不全

武名顯於世

[illegible]

國原秀郷の

貞盛の家系出自の前の大畧とせり。曾て父の常陸大掾國香と討ち相敵と  
りひ且つ父の讎るまゝにて。未だ下向し下野の押領使藤原秀郷と合體し。縁成  
定めて下総ふむらひ伯門と親度の合戦ふ及び竟に朝敵伯門と縁成し。その勲業  
ふよめて從五位上右馬助に叙任せしむ。一宮貴公榮元七代の孫忠盛祇園  
女卿と賜す。その腹不流盛と改く清盛脱衣太政大臣に任じ。一天の権柄と振る。  
世人のよく知る所あり。貞盛忠孝不篤に違ふ事。子孫ふ至つて之を定貴と票へ  
候なり。然もども今昔お治ふ所の所を不良の行ひあり。その是非いまだ知らざらん  
ども。古書に因てらる説く平貞盛初は丹波守なりと云。是惡疾と頼らひて。多く  
医療とせせども治さばこそいふよりて来する。さるべき函件と尋ね（藤原氏）と云けり。



年一もむ あきなり ちの悪癩治りだ。但一胎内にある如の男児を収て某ふ加へ懐く。六  
 頼ふ金下。比他治術ありとの人。お尋貞盛なる左衛門尉維衛 系名と按ぎふ 四男あり が事懐  
 胎ありてありなるが。たゞあるけきま。男ありんと人由ひ。こふ於ん貞盛ハ維衛を巻  
 お拓き。女此のやうと告げが。渾家の腹を裂て。その児と某ふ用ゐんと。維衛は  
 大お孩き。眩暈をうり。お思ひいふ。辭むき。すもなけきま。心お泣て。願ふ。やうく  
 医師の待へぬ。如世とあるま。びりふも。依けきま。よと教さる。医師ハ熟を果て  
 りふも。依けきま。と。いと振りと。確ひ。貞盛が。かた。怯某ハ得あり。との人ハ貞盛  
 のやうと。言けき。不肖と。うち揮き。血脈の児ハ某ふ。う。他人ふ。索ふ。ま。との人。ふ。ふ  
 於て。維衛が。妻。ま。其必死。免き。り。か。そ。その家の。牧。版。女。胎。な。て。六。月。ふ。な。ぶ。と。ま。  
 懐。懐。き。と。ま。と。教。し。その。胎。内。の。児。と。う。ふ。と。ま。女。ふ。み。て。用。ふ。あ。て。う。ひ。その。依。捨。て。他  
 と。索。め。狂。將。と。刻。刻。と。男。児。と。ぬ。某。ふ。合。て。腹。一。乃。ふ。忽。地。ふ。その。癩。愈。り。故。ふ。

師と厚く賞一引出拘救多難中目あるを系所へ返一なり。爰下貞盛も推衛  
 と拓さかの医師花路へ帰らば。此中普く人小賤さん汝その乃小埋伏と射く落と  
 人曰と塞ぐべき術計とをせ。と言會めくまを推衛の一議小及む氏説ひや。さてその医師  
 小うち對ひ密小若ていへるや。帰系のより此方より送りの高小判官代一人と差副  
 下。然まば山と城るまの判官代と馬小乗せ足下ハ流行むとゆる下。然るくバ  
 死亡の過あくん。とのと忘さるる。と説示せむかの医師。緯の心より解さくと推衛  
 初との人あるま。その言を小ぞ後ひる。かくて推衛ハ半途小出処ある本溪小ぞと溜め  
 馬小乗る判官代と觀着て兵非と放つ矢ささ返さば判官代ハ馬より倒小墮て  
 死でけり。医師ハ大小孩と強ぐ。そのより推衛小出出。實ハ此とのと小より。世頃の恩小  
 けり。足下と佐人と慮里斯のめくる。と之頓とま。人のハ医師ハ養生の心小  
 維衛とて轉と山と城てま。維衛又があへ出熱明けま。馬小乗一と医師



雄衛  
 判官代と  
 函師が  
 命を  
 射て  
 救ふ



左衛門尉雄衛



君王堂藏本









蛭と射殺し、さきばねの悦びを孤獨とて、る瀬人お共えり。教へて用藩をさ  
 るるなり。今も折と北海の漂流の人性とあり。と載らるるが始めは秀郷より  
 馬の道お憶然るると向ふ輝さんとして新官におまゐり、と附合せり。脱ふらるる  
 井澤氏が信託辨お説とて、そと書と信せば、書とておまゐり、と先賢の確言  
 とく致へて取捨せざるのあつて、世に都て両將の功を秘し、徳と煥て、他お及が  
 さぬ管あること傳々斯のめくるべ。と古言お秘人として、いふのも、敢て辨説とる  
 とおふべし。門半志と得て、新皇帝と秘し、大内裡お擬へ館と營と、百官百司と  
 置おふて、お家の授札とお極まる。然るに、両將の対ひ、後廣辛時お教と追崩  
 し、この大札と一挙お平定お及び、る。實お比類ある熱功ある賞するお餘り  
 あり、其行の如とお秘して、秘藏とて、る所ある。

但貞盛吏部主参、相馬小次郎従者とて、途おとと、性おへと。

百將傳 卷之三

三

秀郷













好古諸將小

指揮

紫衝

焚





程ふ今いなり力疲まで。船と海上に漂へり。乃ち策を思ひ折る。慶幸春寒  
 多兵と分ち。海陸より是と責めて且賊船を焼討す。純友は遠へに中園を候  
 縁へ船と来る処と橋遠保をこえて曉に埋伏候て急を責撃。純友及び其の  
 重太九とも小擒めり。然れども純友の陣身ね箇所不獲。負さる。其夜及び  
 息絶る。こゝに小園に南海西海一時に平定をう。一に決軍凱旋の後恩賞あり。  
 大將軍右少將小野好古朝臣の参議を拜し。備中のふと傷りたり。經基以下を  
 功の浅深よりして勅賞あり。猶その人の傳ふにべし。

好古の圖替ふいし

策應海寇急警斬獲勞將士分頒致西州清靜則是總督之  
 勲

源經基

人皇六十二代 朱雀帝の時の人天徳元年卒  
 今嘉永六廿延八百九十七年成

源經基者 清和帝之孫 桃園親王

之子也 號六孫王 承平年中早知將

門之反 奏之 拜副帥 而東征 又與小

野好古共征 純友

經基王延喜七年に年十五あり元服源姓を賜ふ。前太平記の說  
 あり。武家評林系圖に天慶二年とす。非ある。清和の御代なるふ  
 より。是と清和源氏といふ。あは氏一統の鼻祖あり

清和天皇  
 第六の皇子  
 貞純親王  
 桃園の宮に生  
 る。はなはて桃園  
 親王といふ  
 但平承と致ふ  
 承平の親王  
 五の皇子とせふ  
 承平の皇子とせ  
 承平の皇子とせ  
 承平の皇子とせ  
 承平の皇子とせ  
 承平の皇子とせ



係

時代前小全一純友誅伐より  
今嘉永六丑逆九百十三年、成

橘遠保者勵官兵討藤原純友擒

之天慶年中也楠正成其後裔也

撃め死淑人伊豫をみ任下。南海にお下向す。遠保の玉の目代とて。  
 賊の威勢にお敵うぞ。宴時潜て時を候ひ。國司の下向にお出會う。妹を  
 授へるとして奏ぐ。一挙にて賊を逐ひて。後純友西海にお敗まらば。伊  
 豫の玉へ来らんとおみと蒙り。兵を伏せて是と戦ひ。竟にお純友父子を生  
 捕る功をとり莫大あり。

六孫王經基

橘 遠 保 の 話

経基源氏の姓を賜ひて。武蔵守より一とたね門既ふ東別不起す。武蔵守箕田  
於て経基との合戦あり。経基當り難きと察し箕田を用きて帰洛あり。前太  
平記及び余が著する。源氏一統志の初輯おのまへ。今更ふのみ自由なり。と云  
より西海ふ副将として。嫡子満仲及びその下。各ふ安んずる。諸士と率ひ屢軍忠と  
抽出て。竟ふ勝利を得らむ。も載てか書類ふ詳あり。但西海の戦と誅せし功  
小依て。正四位下太宰大貳ふ捕任せし。後正四位上ふ叙し。讃守府將軍とあるつて  
とうぐく。げうう。  
東園ふ下向より二代の受領七箇國氏豊ふ困治して。よくその仕を果し。あひ天徳  
元年(ふ)十二月廿四日。六十四歳にて薨りぬ。京都西八條ふ神と崇め。孫を授け親と  
稱せしむ。



清和瓊林一枝賜源姓二分派滋旗幟咸尚白色玉牙永奕

遠保が事蹟も大なり。其代の書み記せり。敢て異変陳説す。故に新しき掲  
出さば看官宜しく察すべし。但西海の賊を数年の後恩賞ありしを新ひり。然  
まども其事を具ふ記せり。のて記さるべし。爾て是とらふ記さば。誠去の増補あり  
んと庶幾

まの公二世のあひゞ其功績をたゞあり 前太平記及び其傳 諸書ふ載り詳  
 るまふ今さう贅言を益ふ似しこと。そのむりのを探せん十が二三で改め  
 出せり。但西官高明公が隠縁を發せんごころに世ふまゝ異門の説ある國史  
 畧を按ずるべし。或謂高明無妄心實賴與滿仲謀以誣告を后の戚者致ふべし



源満仲の経

父六孫王經基源姓を賜ふ。武ねと作さるひより。武佐いよく盛なり。大なるに  
朝廷の守護とあり。嫡子満仲其表を嗣て。馬の道に父祖の勝をいし  
ゑに大なるに流らせ。あべ式とた熟思惟。あひ武臣の能く然るを。劔をく  
朝廷及び身の衛とあり。雅。と當時名ある。能治を索め。あひ筑前。あひ多都志  
との所。あひ異朝より。能治まり。救年任るより。及を。則を。と。あひ能治。遠面  
の世の。時。と。神。あひ新。里。佛。あひ願。ふ。就。中。八。幡。大。菩薩。の。本。朝。の。武。神。あり。と。彼。瑞。籬  
あひ諸。丹。珠。と。抽。り。け。ま。不。測。の。瑞。後。と。威。得。ん。と。金。と。珠。と。金。と。撰。て。六十。日  
その。間。あひ。二。口。の。劔。と。化。る。満。仲。歎。び。と。と。り。て。有。罪。の。者。と。斬。せ。ら。る。あひ。賢。と。加。へ。切。け  
ま。と。と。と。あひ。願。切。と。号。ら。ま。と。ま。と。二。口。と。罪。人。の。膝。と。ひ。て。切。ら。る。あひ。膝。凡。と。号。ら。る。と。さ  
る。二。口。の。劔。と。秘。せ。り。夜。の。武。功。と。著。り。つ。天。下。と。守。護。し。あひ。り。ま。と。り。頼。光。あひ。信

えら。と。流。を。細。髪。切。と。ま。と。一。條。の。灰。指。め。と。鬼。の。腕。と。切。し。り。鬼。凡。と。改。ら。  
ま。と。膝。凡。の。瘡。病。の。と。さ。と。松。成。切。し。り。と。松。切。と。号。ら。る。と。後。嫡。子。美。濃。原。と。頼。光  
あひ。讓。ら。ま。と。ま。と。り。金。矛。出。羽。と。頼。基。あひ。讓。ら。ま。と。り。と。と。あひ。前。九。年。合。戦。の。と。た  
勅。令。あひ。因。て。頼。光。あひ。共。ふ。頼。基。嫡。子。と。ま。と。家。河。内。と。忠。あひ。讓。ら。れ。  
祓。め。と。義。あひ。讓。ら。ま。と。と。一。時。二。口。の。劔。の。吼。る。聲。と。鬼。凡。が。吼。る。聲。と。あひ。似。し。り。  
又。松。切。が。吼。る。聲。と。蛇。あひ。似。し。り。と。の。と。り。鬼。凡。と。と。獅。子。の。と。と。改。名。と。蛇。珠。切。と。と  
吼。凡。と。号。と。と。後。軍。旅。の。と。あ。時。と。時。日。と。舞。る。能。野。別。當。教。真。二。万。石。と。と。と。  
加。勢。け。し。り。其。實。と。と。塔。山。と。と。吼。凡。と。と。共。え。り。教。真。歎。び。と。の。と。と。是。の。源  
氏の。付。宝。と。と。吾。分。際。と。と。過。と。と。と。権。杖。奉。納。せ。り。然。る。と。と。元。来。一。具。の。名。劔。二。口。と  
教。真。あひ。共。え。り。と。の。と。た。和。あひ。受。え。け。し。り。播。磨。と。と。假。治。と。と。と。二。口。と。と。お。せ。ら。る。  
と。と。勝。と。と。と。名。知。り。と。同。貫。あひ。烏。と。と。号。け。り。と。と。と。小。鳥。と。と。号。て。秘。せ。り。然。る。と





満仲が  
強盗  
乱入を  
館小



この小鳥の獅のふふ二分延る。二匹の二匹と隣るへ候てあるふ。少飛程といひて  
びう。後と把て是とるふ小鳥の太刀派もふふ二分縮とて獅のふと月と寸ふ  
ありけふ。佛の獅のふと長きと忍て切さるふと推量とて下獅のふとて友切と号  
く。さく二匹の名叙とて摘み義朝の譲らるるが保元の礼出来て高美の新院へ参り義  
朝の禁裡へ参りて又兄才隔るる。平治の礼の頼朝ふふ友切と侃せらる。軍故  
して落人となり。嵯津莊司が許す宿。友切とて墓の大炊の頼朝ふふ友切と侃せらる。小鳥の  
義朝討て。竟ふ平家の宝岳とる。かく頼朝の世ふ及び大炊の許より友切と返  
進み奥の義経進討使とて西海へ赴くとて教ふ子湛僧より先頃権現奉納  
廿九凡て中法と義経の坊でうふ義経西海へ故と廢け。孫金へ飯所のふに後祇  
より入らとて大炊の件と太刀と箱根権現へ奉納。教願と影らとてうふ後當我  
五那時致天の儲るる玉孫と討とて箱根の別當行實より内致ふ共えり。時致

かえりて遂に竟ふ死む。その時件の太刀とて再び貝の劔とあり。まより諸人のふふ液  
ふと。その傳授ありとて。傳長けとてふ言ひ。義朝平治の礼の敗と八幡太菩薩  
と念ひるふ。その間膳める友のうらふ。かの二匹の重宝のふふある家の守護るる。名と更  
むと。屋あるとて終ふ友切と号。故とて保元ふ其父と指。兄才悉く殺戮  
と。とて友切の名ふ提まり。神明のふふ清ふとて名詮自性の理あり。とて現あり  
ふ。ふふ義朝も初に感懐る。とあり。とて源家繁榮の権燈とて二匹と筆らる。い  
實に満仲がた功あり。とて孫の守護ある。朝廷ふ比と三様の神器。唐土ふ比せ  
鼎と。ふふと宝あるとて得る人ふ必再。失る人ふ必廢る。とてふ満仲の九人あり  
む。神の化現とてふふふ。その中ふ奇と妙あり。かの多田の珠の死立る。満  
仲佐ふ系孫。とて七日七夜の祈念ある。その満る時ふ及びて。松蔭の波にう  
める月より日深く。とてふ佐の神とて話とて眼と塞と合掌する。千の神殿







まぐと答へら。周て勅令あり。官人と遣り月類と索むるか。家の一人  
 とも得び成る内親の家の近捕と捕へり。近捕いそ。親無き首とありん  
 満仲の銀入里。賊と奪ひしもの実あり。但奪ひしもの悉く親無き許ふありと  
 言すふよりて親無き。あを候て捕ふべ。と勅令のわけき。其後捕へりといふ  
 ちまびと斯有バ三百人の花堂及び火で放りしもの説の例の附合せり。のれと  
 ぬま。何まろ。是よりや。あま。び。各言さねのり。小ける。作る。処。種。と。あ。ま。候。と。分  
 ち。雅。さ。の。是。の。と。あ。の。限。ら。ね。と。や

日本百將傳一夕話卷之三 畢



前取

足木市東坪井町

山川宮家実用